



校章の笹竜胆（ささりんどう）は、箕田源氏の旗印です

ささりんどう

〔学校教育目標〕 ～感動し、共に喜びあえる児童の育成～

鴻巣市立箕田小学校 学校だより
令和7年2月3日

児童数
男子 122名
女子 138名
合計 260名



毎日の積み重ねが成果となる（家庭学習） ～ 一日一字を記さば一年にして三百六十字 ～

校長 清水 良江

朝の寒さをより一層感じるようになりました。2月は如月。衣類を更に重ね着する季節とも言われています。厳しい寒さはまだまだ続きますが、3日は立春。これから春の訪れと共に、卒業・進級の日も近づいてきます。今年度一年間のまとめをしながら、次のステップに向けた準備を少しずつ進めていきます。残り30日余りですが、子ども達が元気に登校できますようご家庭での支援をよろしくお願いいたします。

さて、来週10日からは今年度最後の「家庭学習強化期間」が始まります。学年ごとに目標の時間が設定されていますが、第4回の家庭学習時間調べでは、多くの学年で達成していました。しかし、家庭によってばらつきもあるようです。大事なことは毎日コツコツと続けられているか、自ら進んで取り組んでいるかです。途中でゲームに目がいってしまったり、集中力が途切れてしまったりと苦勞しながら取り組んでいた子どもも少なくないようです。

「子どもの生活と学びに関する親子調査（2023）」（ベネッセ教育総合研究所）によりますと「勉強しようという気持ちがわからない」と感じている小中高生は2019年から2022年にかけて増え続け、とくに小4～小6の学習意欲の低下が顕著になっています。勉強する理由をたずねると、2020年に比べて「先生や親にしかられたくないから」を選択した小中高生が大幅に増加し、「将来なりたい職業につきたい」「自分の希望する高校や大学に進みたい」と思う子どもは減少したそうです。将来の目標に向かって勉強するという動機づけが弱まっている傾向があることがわかります。何のために勉強するのか、なぜ勉強をした方がよいのか、子どもなりに目標がもてるようにする必要があります。

「一日一字を記さば一年にして三百六十字を得、一夜一時を怠らば、百歳の間三万六千時を失う」これは幕末の思想家の吉田松陰の言葉です。「日々勉学を積み重ねれば知識を得られるが、勉学を怠れば膨大な時間を失うことになる」という意味です。一日一日の積み重ねはたとえ小さくても、一年が終わるころには大きなものになります。始めは5分でも、10分でも学習に向かえるようになれば、毎日繰り返すことで習慣化し、それが成果となって表れます。なかなか集中できないようであれば量を増やすことより質を高めることを優先したいです。今は家に帰ると楽しいものがあふれ、勉強どころではないかもしれませんが、どんな状況であっても自分の心にブレーキをかける力は大切です。「～したら宿題をする」「食事の前に～をやる」など家で学習に向かうまでのルーティンを決め、「まずは宿題をやる」「次に今日勉強した内容をもう一度解き直す」「最後に自分のオリジナル自主学習ノートで好きな勉強に取り組む！」など、楽しみながら取り組んでいけるとよいですね。また勉強に静かに集中できる環境を整えることも大事です。習慣さえつけば、学年が上がるにつれて行えるようになります。ただし、本人の意欲だけでなく学習方略も大事な要素ですので、どのように勉強していったらよいのか、ぜひお子さんと話し合ってみてください。習慣化を目指し、頑張りましょう。

注) 学習方略：学習を効果的に行うために行う様々な態度や方法。（例：計画を立てて勉強する／ノートに書く／声に出して読む／すぐにやり方や答えを聞かずに学習を進める／間違えた問題をやり直す／自分に合った勉強のやり方を工夫する 他）